

大原大学院大学  
監査系科目の紹介

教授 末益 弘幸

# 監査系科目の紹介（基本科目）

## 監査論Ⅰ（1年春学期）

独立した立場による監査人の監査業務に関して必要となる指針について学ぶ。監査総論・監査主体論・監査実施論・監査報告論のうち、監査総論と監査主体論を中心に学ぶ。

## 監査系科目の紹介（発展科目）

### 会計職業倫理

（1年春学期）

本講義を履修しないと本学は修了できません！

将来の会計プロフェッションとしての役割を担うために、国際的な感覚を具備して、会計や監査等の専門職業において求められる倫理観の醸成を図るとともに、常に正しい行動を率先することで、信頼と尊敬に値する会計専門職業人になることを目指す。

### 監査論Ⅱ

（1年秋学期）

金融商品取引法や会社法に基づく財務諸表監査において、具体的な監査手続きの実施方法など、実務上要求される知識と監査技術の習得を目指す。

# 監査系科目の紹介（発展科目）

## 米国監査論（2年秋学期）

米国の監査制度について学ぶ。非公開会社および公開会社の財務諸表監査を中心に、監査主体としての適格性について理解するとともに、監査計画の策定及び監査証拠の収集、監査報告までの一連の流れを理解する。

# 監査系科目の紹介（応用・実践科目）

## 監査論Ⅲ（2年春学期）

監査論Ⅰおよび監査論Ⅱで未学修の内部統制監査、四半期レビュー、保証業務、監査役監査制度について学ぶ。

## 監査論演習A（2年秋学期）

会計および監査上の不祥事とそれを支える基本概念についての理解を深めるとともに文献調査能力やコミュニケーション能力、表現力などを身につけることを目的とする。

## 監査論演習B（2年秋学期）

監査の現場で実際に最低限必要とされる水準の監査調書を作成できるスキルの獲得を目指す。

## 履修上の留意点（監査系科目のみ）

### 【本学修了のための要件】

**会計職業倫理は必修科目**

**監査系授業科目から 2 単位（1 科目）以上**（会計職業倫理以外）

（修士論文を執筆しない方は、演習科目を 2 年春学期および 2 年秋学期に 2 単位（1 科目）以上履修しなければいけません。監査論演習 A・B も演習科目の一つになります。）

### 【公認会計士短答式試験一部科目免除申請のための要件】

**監査系の授業科目から 6 単位（3 科目）以上**

### 【税理士試験の試験科目免除のための研究認定申請のための要件】

特になし

## 履修モデル（税理士志望者）

1 年春学期	1 年秋学期	2 年春学期	2 年秋学期
会計職業倫理 監査論 I			

- 「会計職業倫理」は必ず履修してください。
- 監査論 I で監査の概論について学ぶことをお勧めします。
- 監査に関する知識は、職業会計人として必要なものですので、余裕があれば他の監査系科目も積極的に履修するようにしてください。

## 履修モデル（公認会計士志望者）

1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期
会計職業倫理 監査論Ⅰ	監査論Ⅱ	監査論Ⅲ	監査論演習A・B

- ・「会計職業倫理」は必ず履修してください。
- ・公認会計士試験の監査論に本学の監査系科目はすべて役立ちます。受験計画を勘案しながら、可能な限り多くの監査系科目を履修するようにしましょう。
- ・監査論演習は、公認会計士試験の論文式試験における答案作成能力の育成に役立ちます。



## 履修モデル（一般企業就職志望者）

1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期
会計職業倫理 監査論Ⅰ			

- ・ 「会計職業倫理」は必ず履修してください。
- ・ 一般事業会社のうち上場会社であれば、公認会計士監査が必須となるため、監査系科目の知識は必ず役立ちます。

## 履修モデル（米国公認会計士志望者）

1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期
会計職業倫理 監査論Ⅰ	監査論Ⅱ	監査論Ⅲ	米国監査論

- ・「会計職業倫理」は必ず履修してください。
- ・米国公認会計士試験科目のうちAUD（Audit & Attestation）に本学監査系科目はすべて役立ちます。日本の監査制度は、米国監査制度を基盤にして整備されているため、日本の監査制度を学ぶことも米国公認会計士試験に役立ちます。
- ・「米国監査論」は、米国公認会計士試験に直結する内容を学習しますので、必ず履修しましょう。
- ・受験資格のための単位の取得を考えている方は、担任経由で大原学園の米国公認会計士講座の専任教員に相談したうえで、履修を決定してください。